

「徳之島花いっぱい運動」 10年経過しての雑感

フラワー委員長 雪山渥美

わわきゃ島徳之島に10年計画で100万本の花木を植えて、美ら島フラワーアイランドにしようという、夢とロマンに取り組んで、その10年が経過しました。

10年前に描いた夢とロマンはいかほどに実現できたか、反省してみたいと思います。

100万本の花木植えはこの10年間でどれくらい植えられたでしょうか、概算してみます。毎年、確実に植えられた花木は4月の入学時に、小中高校の新生生たちが、入学記念植樹として植えられた数です。その数を25年度で見ると、小学校274名、中学校270名、高等学校253名、合計797名。5年前の21年度は小学295名、中学276名、高校279名、合計850名。10年前は約900名だったと思います。

最初の頃は新生生全員にハイビスカス又はブーゲンビリアの苗木を生徒数プラス4〜5本アルファード植えてもらっていましたが、亀津小学校、亀津中学校等生徒数が多いところは、校庭に植える場所が無いとこのことで、ヒカンザクラ、トックリワタノキの成木を植えてもらうようになりました。

生徒数は年間平均850名、植樹数約1000本、平成23年度からヒカンザクラ等成木を植えるようになってから本数は300〜400本に減っています。ただし苗木代は高くなっている。成木の苗木は沖縄から取り寄せるために。徳之島帰郷記念団体（観光団、郷土訪問団、同窓会、結婚記念、法事等）の記念植樹で約200本、年間約1000本足らずが私たちフラワーメンバーが直接関わって植樹している数だと思

ます。平成16年〜18年にかけて、ある篤志家からチュリップ球根3000個とその苗800本、エラブユリの花球根500個等を寄贈され、学校や公園に植え付けしています。

思い出をひとつ。平成18年頃、吉岡元天城町長時代に、重田精一名校長（天城町民の評価）が教育長として就任してきた。氏は天城小学校で私より一級下だった。彼は吉岡町長より、私が「徳之島花いっぱい運動」に関わっていることを聞いて、ある日「兄貴はいいことをしているね」と電話がかかってきた。彼は電話の向こうから、自分が教育長になり、天城町の小・中学校に花いっぱい運動を広めていきたい。知恵を拝借したいとのことだった。与えるほどの知恵はなかったが、知っている範囲を伝えた。

その日から間もなくして、氏は花いっぱい運動を開始する、学校への通達文を私にもFAXしてきた。それを拝見して、その文章のすばらしさに感動した。真の教育者でないと言えない言葉だと思った。花を植えて育てる意義を先生方や生徒たちに分かりやすいように愛情を込めて描かれていた。



それから二年後、フラワーサミットで徳之島帰郷したとき、時の町長と教育長から中学校校見学するように言われた。訪問団の中の天城町出身の友人3人で、空港近くにある天城町北中学校を訪ねた。校門に入ったとたん、見事な花盛りの花壇に感動

した。校門前から、とどりの花々が咲き乱れていた。しばし雄大な花々に見とれていた。校長先生にあいさつして、感動のことは述べた後、ここまで育て上げた経緯をお尋ねした。すると担当の先生を紹介された。先生は花壇作りから、花苗の